

離乳中期の食事

▶安全に嚥下を促す姿勢



開口時に、舌が床に平行程度の頸部の角度にします。



足底全体が床についていること

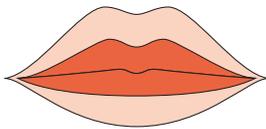
足底全体が床や椅子の補助板に着くように座ると姿勢が安定します。

顎や舌に力が入るため、しっかりと口をもぐもぐさせることができます。

補助板がない場合には、お風呂マットなどを重ねてガムテープなどで留めて足置き台を作ります。その際、子どもが足で蹴って動いてしまうことがあるので、マットを切ったりくりぬいたりしてそこに椅子の脚を入れ、マットが動かないようにする工夫が求められます。

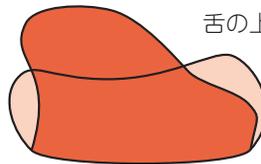
〔厚生労働省：教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン 事故防止のための取組み～施設・事業者向け～、2016をもとに作成〕

▶7～8 か月頃にみられる唇と舌の特徴的な動き



左右同時に伸縮

- ・上下唇がしっかり閉じてうすく見える
- ・左右の口角が同時に伸縮する



舌の上下運動

- ・数回モグモグして舌で押しつぶし咀嚼する

〔金子芳洋、他（編著）：食べる機能の障害 その考え方とリハビリテーション、医歯薬出版、23-29、1987〕

▶離乳食のかたさのめやす

親指と人差し指よりも力が入りにくい親指と薬指でかたさの確認をすることが勧められます。



（堤ちはる）